

生涯学習概論2024レポート 1 回答

5月15日（水）正午で提出者26名

1. 講評

1) 日本語の作法を守ること

書き出しや改行後の1文字下げができていない人が相当数。①字下げなし、②空白行の挿入、③半角で1文字や数文字分を下げる例が見られる。全角と半角の区別を恒に意識しておく。

2) 文字列が内容を的確に示すタイトルを

内容について補足説明不要なタイトルを与える。「授業」を含まないタイトルOK。タイトルの場合「かっこ」を付けると字義どおりの意味ではなくなる。たいていは皮肉や馬鹿にした表現となる。例：「ごちそう」→粗末で不味そうに見えるが奴らにとってはそうらしい。本文中であれば強調の意味の場合もある。

タイトルは本文を書いてから考える。本文の重要語句をつなげればよい

2. 回答

1) タイトル適切

小学校3年生の頃、昔のあそびをする総合の授業

小学校3年生の頃、学校の体育館で竹馬やめんこ、コマ、けん玉などの昔の遊びを、近所に住んでいるお年寄りの方々から教えてもらい、実際に遊んでみる授業がありました。コマはヒモの巻き方を教えてもらい、メンコはカードのひっくり返し方のコツを教えてもらいました。

高校3年生の頃、倫理の授業での担当教師の一人芝居

高校3年生の時、倫理の授業で、倫理学の歴史や偉人の考えなどを黒板に書いて解説していくのではなく、担当教師が一人芝居をしながら解説をして授業を進めていました。

1年間かかった授業

私の高校では、1年生の冬から2年生の冬まで1年間をかけて行う総合的な授業があった。私の時は4人または3人の班に分かれ、SDGsの17個のテーマのうち1つを選び、その分野における問題や課題を見つけ、自分たちで考えた解決方法をパワーポイントにまとめ発表する授業だった。

最初は自分たちの班でテーマに沿った問題・課題を新聞やニュースからを見つけることから始まる。この時、解決方法を考えるための記事や論文も一緒に調べておくことが後の作業を楽にするためとても重要だと教わった。

解決するための問題を決めたら、その解決方法を考えていくことになる。この時大切になってきたのは、日本だけではなく世界で実施できるような解決方法を考えることだ。そのため、日本で行われている解決方法だけでなく、世界での取り組みについて調べる必要がある。

解決方法が決まるとそれらについてパワーポイントにまとめ発表し、学校の本に載せる用にまとめた。

地域を学べたジオパーク授業

私が一番印象深かった授業は、小学校4年生の理科の科目で講師の先生を招いて行った、ジオパーク授業

です。ジオパークの授業は貴重な地形や地質などについて学びました。近くに筑波山があったためそれをモデルにし、実際に筑波山を構成している岩石を自分の目で見えて触って実感するとともに、友達と「これはどうやってできたのか」「どうしてそうなったのか」などといったように意見交換をして理解を深めていました。

そしてこの授業で最も印象に残っていることはジオラマを用いて実際に近い形で、筑波山や筑波山の周りの地形、地質にはどのような特徴がありどのような構造になっているかを学ぶことができたことです。

当時から私は理科の授業が楽しくて好きだったため、自分の目で見えて、触って体験することで住んでいる地域のことがよく知ることができ、印象深い授業でした。

私は化学に魅せられた

私が紹介するのは小学4年生のときに受けた食塩の燃焼をテーマとする理科の授業です。

そのときの理科の先生はH先生という当時40代後半のおじさん先生でした。その先生はその年に他の学校から移ってきて、理科の最初の授業の導入としてその実験を見せてくれました。

実験の内容は試験管に入れた食塩を熱することただそれだけです。しかし、私はこの単純な実験に化学のおもしろさを感じたのです。私は実験台の前で食塩の様子を観察し、徐々に溶け、真っ白に燃え盛った食塩に興奮しました。

先生はその真っ白になり冷めきらぬ食塩をおもむるに実験台のテーブルの上へ出しました。まるで雪のような塩にマッチ棒を近づけると勢いよく燃え思わず私は感嘆の声を上げました。

私はこのとき私が知っているものが形を変え、私の知らない現象を引き起こすことに感動を覚えました。もしかしたらこのときすでに理系の道へ進むことを決意したのかもしれませんが。

スポーツクラスの苦行

私の高校は運動部が強く、私の所属していた部活動も全国を目指せるくらいには強かった。私は高校2年生のコース選択でスポーツクラスを選択した。スポーツクラスとは、運動部に所属しているかつ、スポーツ推薦で進学を目指す生徒向けにカリキュラムが組まれたコースである。他のコースと比べて勉強が比較的簡単なものになっており、体育系の科目が多くなっている。その中でも特に異彩を放つ授業があった。その授業の名前は「野外」。名前だけ聞くと海の調査でもしそうな名前だがそんな甘いものではない。この授業では毎回20mシャトルランを走らされる。しかもスポーツクラスの授業は私の所属していた部活動の顧問の先生が担当するので手を抜くことなど許されない。そもそもシャトルランの回数がそのままこの授業の成績に反映されるため手を抜きたくても抜けないのだ。しかし、辛くはあるもののみんなで励まし合いながらやる授業はこの授業くらいなので、良くも悪くも良い授業だったと思える。

中学・高校で受けた印象的な授業～ブタの眼球の解剖と食中毒～

高校二年生の生物で行った、ブタの眼球の解剖が最も衝撃的で、記憶に残った授業だった。ブタの眼球は、ヒトの眼球と構造や大きさが類似しているようだ。今まで、臓器を用いた解剖を行ったことがなかったので、かなり印象的な授業だった。実験では、ピンセットとハサミを使ってまぶたを切り取りスケッチや観察を行った。その後、眼球を前半球と後半球に分断し、水晶体や網膜などの構造をスケッチや観察をするといった内容だった。眼球とまぶたは、しっかりとくっついており、ハサミで切り取るのは困難だった。この

とき、眼球に付いている神経を、まぶたと一緒に切り取らないように気を付けるのが特に難しかった。眼球を分断するときも、ハサミがなかなか通らず、かなり切りにくかった。眼球の内側は黒色になっており、網膜などの構造が少し白濁色になっていた。水晶体は、少し強く持っても壊れず、丈夫だったことが意外だった。

中学二年生の家庭科で学んだ、食中毒についての授業がとても印象的に残った。授業ではビデオで、14歳の男の子が焼肉店でユッケを食べたことで、食中毒により死亡したという内容の事件を見た。その食中毒は、腸管出血性大腸菌という菌で、O157やO111が代表的だ。食中毒に当たると腹痛や嘔吐などの症状や、溶血性尿毒症症候群を発症してしまう恐れもある。この授業を通して生食による食中毒の怖さを痛感した。そして、外食だからと言って、必ずしも安全ではないのだと感じた。この授業を受けてから私生活でより一層、食中毒に気を付けるようになり、肉を調理するときはしっかりと加熱し、箸の使い分けや、調理道具を綺麗に保つなどのことを心掛けるようになった。

2) タイトルもうちょっと

涙の授業

私は小学校2年生の道徳の授業で、担任の先生が涙ながらに読み聞かせをしてくれたことが忘れられません。

先生が読み聞かせしてくれたのは、その日だけでした。その本は、肉牛を出荷する家で育った女の子が主人公です。女の子は、一頭の牛の世話を親と一緒に熱心にしていましたが、牛が大きくなり、出荷しなくてはなくなりました。女の子は涙を流し、お別れをします。その後、肉になった牛と再会するシーンが印象的な物語です。

私はその時、その本の内容に心を動かされたと同時に、その本を涙ながらに読み聞かせしてくれた担任の先生が忘れられません。女の子が牛とお別れする所を読み始めた時、先生の目には涙が浮かんでいました。小学生の私は、今まで泣くことのなかった先生が泣いていることに驚きました。命の大切さを自分の感情を揺さぶられながら、生徒に伝えてくれた先生を私は忘れることができません。

リアルな授業

私の思い出に残っている授業は、高校3年生の時に受けた、生物の授業である。何故かと言うと、バイオテクノロジーに関する授業を受けた際、例として蜂の巣の形状である、ハニカム構造について学んだ。その際、実物の蜂の巣を解体し、ハチの生態や巣の構造について、実物を通し詳しく学んだのが印象に残っている。

進路の決め手となった授業

高校2年生の総合の授業で、新型コロナウイルスの影響で修学旅行が中止になった代わりに沖縄についての調べ学習をしました。沖縄に関することであれば歴史、郷土料理、名所など分野は問わず、各々好きなテーマを取り上げました。私は小学生のころに家族旅行で沖縄を訪れたことがあり、沖縄に生息する生物には沖縄独自の呼び名があることを知っていました。私はこの機会にさらに海洋生物の沖縄名について調べてみたい思い、まとめることしました。当時、部活動や勉強、進路のことなどで海洋生物について調べ物をしたり、水族館に行ったりすることが非常に少なくなっており、その分野を楽しむことを忘れていました。しか

し、久しぶりに海洋生物について調べたり、絵を描いたりするととても楽しく、自分が一番この先学んでいきたい、関わっていききたい分野はやはり海洋生物なのだと気づきました。まとめのポスターを仕上げ、発表してから専門的に海洋生物を学ぶための準備を始めました。この授業は私が大学で海洋生物について学びたいと考えるようになったきっかけとなりました。

多くの力を培えた授業

私は、中学校一年生から三年生までの国語の授業が大変印象に残っており、今の自分を形成してくれたものだと感じている。それは、授業の終わりに行う百人一首かるたの勝負があったためだ。当時の国語の先生は「百人一首の強さは人としての強さだ。」という風におっしゃっていた。百首の札を覚え、一對一の勝負をし、トーナメント方式で上位へ上がっていくという中で、諦めないで戦い続ける心の強さや暗記力、負けた時に振り返って考える思考力など、身に着けるべき力を持てたと感じる。私は三年間の努力の末、学年で二番目という結果を残すことができた。その経験は「あれほど自分は頑張れたんだ。」というモチベーションとなり、部活動や高校受験を頑張ることができた。百人一首なんてちっぽけなものだと思う人もいるかもしれないが、そのようなものであっても本気になり努力すると、多くの得るものがあると学べた授業だった。

私を変えてくれた授業

私の小学校では、毎年大縄大会というものがあつた。かなりレベルが高かつたため、各クラスが懸命に取り組むものであつた。なかでも、四年生の生活の授業で行う大縄の授業が印象に残っている。その授業ではクラスの記録が伸び悩んだため、子供ながらにみんなで話し合いを行っていた。生徒主体で話し合いが進められる中、急に手を引っ張られ廊下に出され、「やる気がないのなら出ていけ。」と先生に言われた。そして、自分は表面上のやる気を見せているだけで、心からクラスのためを思って取り組んでいなかったことに気が付いた。少し厳しい指導だったかもしれないが、そこから私は改心し、人として変わることができたきっかけだと感じている。今の時代には即さない指導だったかもしれないが、そのような経験は自分には必要だったと感じ、その経験をしなかったら自分はどうなっていたかと思う。私は、そのような自分を変えてくれた授業に感謝している。

考え方を広げてくれた授業

私が高校二年生の時の印象深い授業がある。それは、人工妊娠中絶について話し合うという保健の授業だ。先生はその授業で「自分の子供が障害を持つと分かつた時、中絶をするかしないかその理由も考える。」という課題を出した。繊細な内容だと感じていたが、先生は何人かの意見を聞き始めた。私は、せっかく授かることのできた命だからという理由で「中絶しない」を選択し、周りのみんなも同じ意見だろうと考えていた。しかし、他の生徒は、「障害を持つ子が生まれてきたときに育てられる自信がない。」や「親である自分が死んだときに、その子を支えられる人がいなくなってしまうかもしれない。」など、「中絶する」という意見を述べていた。そのような意見を聞き、本当に障害を持つ子のことを思うというのはどういうことかを考えさせられた。取り扱いにくい内容であつたかもしれないが、深く考えさせられる良い授業だったと思う。

考え方を広げてくれた授業

私が高校二年生の時の印象深い授業がある。それは、人工妊娠中絶について話し合うという保健の授業だ。先生はその授業で「自分の子供が障害を持つと分かった時、中絶をするかしないかその理由も考える。」という課題を出した。繊細な内容だと感じていたが、先生は何人かの意見を聞き始めた。私は、せっかく授かることのできた命だからという理由で「中絶しない」を選択し、周りのみんなも同じ意見だろうと考えていた。しかし、他の生徒は、「障害を持つ子が生まれてきたときに育てられる自信がない。」や「親である自分が死んだときに、その子を支えられる人がいなくなってしまうかもしれない。」など、「中絶する」という意見を述べていた。そのような意見を聞き、本当に障害を持つ子のことを思うというのはどういうことかを考えさせられた。取り扱いにくい内容であったかもしれないが、深く考えさせられる良い授業だったと思う。

3) タイトルがんばろう

私にとって印象深い授業

私は今までの授業で思い出に残っている授業を3つあげたいと思う。1つ目は、高校2年で受けた生物の授業である。この授業の目的は生物の発生から生育までの様子を実際に観察することであり、他の大学から協力を受けながら行ったものである。内容としては、ウニの精子と卵を用意し、人工授精したあと、プラスチックの試験管内で経過を観察するというものだった。自分で受精させ、育てる行為は経験したことのないものであったため、生物が生育していく様子を観察することで教科書からでは学ぶことができない、五感から感じられるものが多くあった。

また、2つ目に高校3年次に受けた生物の授業がある。授業内容としては動物の目の解剖と観察であり、授業内では豚の目を用いた。初めは目の周りについている肉を切り取り、その後角膜や水晶体を取り出していくといった順序で進行していった。私にとって解剖はこの授業が初めてであったため、解剖器具がうまく扱えず、角膜やガラス体を傷つけてしまったことをよく覚えている。その一方で文字の上に水晶体を置くことで水晶体が本当に虫眼鏡と同じような機能を有していることを体験したときはとても感心した。

3つ目は小学校4年生で行った家庭科の調理実習であり、この授業の調理実習ではカレーをつくるものだった。その際、自分たちで本を用いてカレーの作り方を調べ、私の班ではハヤシカレーを作ることになった。また、材料も自分たちで買い揃えたものを使用して調理した。普段は自分が台所に立って料理をすることなどなかったのに加え、自宅で食べているカレーとはまた一味違ったため、新鮮で楽しく行うことができた授業であった。

刺激のあった授業

中学一年生の頃、国語の授業でオレンジジュースを比べ飲みするという授業がありました。内容は、果汁100%のオレンジジュースが二つのコップのうち片方に入っている、と説明を受けた上で、本当はどちらも100%ではなくどちらも果汁50%のオレンジジュースを皆に飲ませるというものです。二つのコップを飲み終えたクラスメイトでどっちが100%のオレンジジュースであったか、二つのグループに分かれて議論し合うというものです。結局のところどちらも100%果汁ではないことを知らずに二つのグループはこっちが本物であるという理由を議論し合い、授業の最後、先生により種明かしをされ、人間の脳は本当に単純なものであり、自分の脳を騙すことはとても簡単なものであるから、それを勉強や習い事に応用し、自分を磨くこ

とを怠らず励みなさい。と激励を受け、とても感動した授業であることをよく覚えています。

中学2年生でやっていた古典の授業で、百人一首を授業中に覚えたのも印象的な授業の一つです。覚え方として、一つ一つ歌を解剖し、理解した上で百人一首カルタを授業内で行うものです。日々、覚える歌が増えていき、取れる札もそれに伴い増えることが楽しく、昔の日本人の奥ゆかしさや趣深いところを歌から学び、覚えることができることと、古典の文型などを覚えることを並行するのが身に染み、為になったと感じた授業でした。

思い出の授業

これは、私が小学校4年生(2学期)～5年生(1学期)までの、総合的な学習の時間に行った授業である。

当時在籍していた小学校は、旧校舎から新校舎への建て替えの最中であり、私が小学校5年生に進級後、旧校舎は取り壊された。そこで、旧校舎の思い出を後輩たちへ残すための活動が、小学校4年生から、総合的な学習の時間に行われた。

活動は、2人以上のグループで行い、各グループが小学生なりに思考をめぐらして活動した。私が所属していたグループは、旧校舎が歩んだ歴史をA2サイズ程度の用紙に書き出しそれを本のようにまとめた。別のグループは、旧校舎のミニチュア模型を作成する等の活動を行った。また別のグループは、なぜか校庭に「ナンジャモンジャ」の木を記念樹として植樹した。

今考えると、「なぜ？」と感じる活動をしていたグループもあるが、教員からの口出しもほとんどなく、各々が自由な発想を持って活動した印象深い授業である。

これは、私が高校3年生の、名目上は国語演習の授業である。

当時、私のクラスの国語演習の授業を担当していた教員は、良い意味で変わった人であった。元予備校講師であり、学習指導においては非常にベテランの教員だが、私のクラスの全員が進路を決定し、進学に向けた授業を行う必要が無くなると、国語に関する授業はほとんど行われなくなった。その代わり、今後の世の中を生きていく上で必要な知識として、将来的な資産形成の方法・注意点、投資の利点・注意点など、「お金」にまつわる自身の経験を交えた話を、冗談を交え、できる限りわかりやすく話してくれた。

国語演習の授業とは言い難いが、将来生きていく上で必ず必要となる「お金」に関する重要な話を聞くことができた良い経験である。

小学校と高校で思い出に残った授業

小学校の学活の授業で、1～6年生が縦割班毎に集まり学校祭の準備をする時間があった。低学年時は他学年との交流を楽しみ、高学年時は企画立案や低学年の掌握を実践するなど学年によって違った学びを得られる授業だった。

高校3年生の時、フロンティア探究という授業があった。少人数のグループでテーマを設定し、1年かけて研究を行い発表するという内容だ。1年という長いスパンで物事を行う事は少なかったし、私たちの班では研究内容を用いて小学生に向けた発表会を開いたが他の班では全く異なるアプローチで研究を進めていたの
で選択の幅が広く面白い授業だった。

印象に残っている授業について **九九と解剖**

私が小学校から高校まで受けてきた授業の中で、特に印象に残っている授業は3つある。

1つ目は、小学2年生の時に受けた算数の授業だ。

算数の九九といえば、1から9の段まで暗記のイメージが強く、2年生にとってはハードルが高く感じるが、その時受けた授業では、先生が作成したスタンプカードが配られ、1つの段を覚えて暗唱できるとスタンプがもらえるというシステムだった。最終的に全てのスタンプを集めると、そのスタンプカードはラミネートしてもらえることができ、自分だけの下敷きが完成するというもので、当時のクラスメイトにとって九九を暗記する大きなモチベーションになっていた。今思えば、小学2年生の子供心を掴み、楽しく九九を暗記させる画期的なアイデアだったと思う。

2つ目は、中学2年生の時に受けた理科の授業だ。

当時理科を担当していた先生が、精肉店から鶏の心臓を買ってきて、解剖させてくれたのを覚えている。鶏の心臓を解剖することは指導要領には載っていないが、先生のご厚意から貴重な体験をすることができてうれしく思う。中学の理科では、心臓の構造について学ぶが、実際に右心室や左心室、大動脈や大静脈などを目で見ることで、教科書の図を見るよりも理解するのに大きな助けになった。

3つ目は、高校3年生の時に受けた地理の授業だ。

高校3年生で受ける授業はどれも受験を意識したものが多かったが、地理の授業では、問題を解くにあたってクラスメイトと意見を交流したり、地図帳や資料集の中から根拠を探したりするなど、先生は実際に手を動かして演習することを重要視しており、このおかげで受験に必要な知識だけでなく、他の学習でも生かせる能力を身に着けることができたと思う。

このように、この3つの授業からは得たものが多くあり、私の中で特に印象に残っている。

私を変えてくれた授業 **私を変えた綱引き**

私の小学校では、毎年大縄大会というものがあった。かなりレベルが高かったため、各クラスが懸命に取り組むものであった。なかでも、四年生の生活の授業で行う大縄の授業が印象に残っている。その授業ではクラスの記録が伸び悩んだため、子供ながらにみんなで話し合いを行っていた。生徒主体で話し合いが進められる中、急に手を引っ張られ廊下に出され、「やる気がないのなら出ていけ。」と先生に言われた。そして、自分は表面上のやる気を見せているだけで、心からクラスのためを思って取り組んでいなかったことに気が付いた。少し厳しい指導だったかもしれないが、そこから私は改心し、人として変わることができたきっかけだと感じている。今の時代には即さない指導だったかもしれないが、そのような経験は自分には必要だったと感じ、その経験をしなかったら自分はどうなっていたかと思う。私は、そのような自分を変えてくれた授業に感謝している。

記憶に残っている授業について **はんだ付けが難しかった**

記憶に残っている授業は中学2年生の技術、高校2年生の藤キャリアと日本史、国語演習だ。

中学2年生の技術ではダイナモ付きラジオキットを1年かけて作った。座学が多い中で、班の人と話しながら手を動かして、集中して作業するのが楽しかった。はんだ付けが難しかった分、完成した時の達成感も大きかった。

高校2年生の藤キャリアという授業では、環境問題について考えたり、マナー口座を受けたりした。

中でも思い出に残ったのは、環境教育の一環で行われた大豆の栽培だ。JAオホーツク青年部の方々に教えてもらいながら畑を耕すところから、収穫、班ごとに収穫した大豆についてのプレゼン作製や、それを使用し

た料理を作った。

同じく2年生の日本史は、授業よりも授業の間に先生が話す雑談が楽しくて印象に残っている。内容はあまり覚えていないが、授業中の生徒の発言から話が広げられていったので面白かった記憶がある。授業の内容に関連する話（今の日本の経済について）や全く関係ないリボ払いの仕組みについての話をしていた。

国語演習では、論理コミュニケーションという教科書を使い、自分の意見を論述する方法を学んだ。授業では設計図というものを使って、質問に対する意見、根拠、事例、構成を考え、それを論述文にしてい、その中で今まで苦手だった文章を書くということが出来るようになった。

「思い出に残る/印象深い授業」

私がまだ中学2年生の時に3年生の卒業式の時に歌う合唱の練習を音楽の授業で行っていました。その時は、丁度思春期というのもあり、合唱といえど人前で大きな声で歌うというのはとても恥ずかしく感じられ、周りの友人もあまり真面目に取り組んでいませんでした。それを音楽の先生も感じ取ったのか、ある時、特別ゲストとして当時の社会の先生が音楽の授業に参加しました。初めは私を含め、皆「なんでこの先生がこの授業に？」といった反応でした。しかし、合唱の練習が始まるとその先生が普段のイメージからだと想像がつかないくらい大きく、綺麗な声で歌い出しました。皆驚いてはいましたが、次第にその声に釣られるように大きくハッキリとした声で歌うようになりました。その授業が切っ掛けとなっ、合唱の練習に皆真面目に取り組むようになり、卒業式ではかなり上手く歌う事ができたと思います。それが私の印象に残った授業です。

印象深かった授業 **数学嫌いを救ったシステム／タブレット**

私の印象深かった授業は中学校2、3年生時の数学の授業だ。私の通っていた中学校では校長の教育方針によって様々な改革がされていて、私が在学していた期間にも多くの変化があった。授業に関わることで特徴的なものには定期テストの廃止があった。これは定期テストのための勉強ではなく、単元テストを細かく行うことで日常的に勉強させ知識を定着させることを目標としたものだった。さらに数学の授業では一人一台ずつタブレットを使い、自分のペースで苦手なところを重点的に勉強することができるシステムがあった。私は数学が苦手だがこのシステムがあったため一つずつ確実に理解することができ、テストでの成功体験もできたため印象深いものとなった。

高校までで印象に残った授業

- ・小学生2年生の冬の体育の授業の時、その日は私が住んでいた地域にしては珍しく雪が降り積もっていた。そこで先生は急遽雪合戦を体育の授業にした。クラスのみならず雪の塊を作って投げる人もいれば、雪だるまを作っている人、かまくらを作っている人など滅多に積もらない雪の日を存分に楽しんだ。
- ・中学生の毎年9月から10月にかけて長距離走の授業をしていたそれは毎年10月に行われていた15キロメートルを走り切る強歩大会というものがありました。中学生当時はあまり良いとは思わなかったけれど今となっては良い思い出になったと思っている
- ・高校の時、私が通っていたのは仏教校だったので仏教に絡む授業があった。その中でも印象に残っているのは毎年行っていた茶道の授業だ。和菓子を食べたりお茶を点てたりした。入学してすぐ先輩たちが点てた

抹茶を飲んだが当時はすごく苦かったけれど時間が経てば慣れていき、今ではとても美味しく感じられるようになった。

小学校から高校まで、一番思い出深いと思う授業

小学生のときは、2年生のときの理科の授業が一番思い出深く残っている。理由は、校庭にいたアゲハチョウの幼虫を羽化させたり金環日食を観察したりと他にもたくさんの実習や実験をやり楽しかったからだ。また、自然にふれることが一番多かった学年でもあったのでより印象深く残っている。

中学生のときは、1年生から2年生にかけておこなった、総合の時間の調べ学習が思い出深く残っている。理由は、地域で働いている人にインタビューをしたり、それを紙にまとめて新聞をつくったりするのが大変だったがとても楽しかったからだ。また、クラスメイトと協力しあって試行錯誤するのもすごく楽しかったので一番思い出深いと感じている。

高校生のときは、1年生のときの生物基礎が一番思い出深く残っている。理由は、私が将来に繋がたい、もっと学びを深めたいと思い一番集中して取り組めた授業だったからだ。また、当時の担当していた先生の授業の進め方と解説の仕方が面白く、かつ分かりやすかったのも印象に残っているきっかけになっている。

小学校と高校で印象深かった授業

印象深かった授業は、小学校1年生の時の道德の授業である。相手への言葉の使い方の授業であったと記憶している。厳しい言葉やキツイ言葉をチクチク言葉と教わり、優しい言葉をふわふわ言葉と教わった。おそらく多くの人が同じような授業を受けていると思う。この授業でチクチク言葉とふわふわ言葉のイメージ図のようなものを描かされ、どちらがぶつかったら痛くないか、ということを考えさせられた。チクチク言葉は皆トゲトゲしたような図を描き、ふわふわ言葉は雲のような、文字通りふわふわとした図を描いていた。言葉だけで教わるより図にしたらとても分かりやすく、なぜチクチク言葉は使ってはならないのかを簡単に理解でき、自分の言葉遣いを改めようと思ったきっかけとなり、今でも印象に残っている授業である。

高校1年生の時の家庭科の授業でリボ払いの危険性についての授業が印象に残っている。正直リボ払いの詳細い仕組みについてはあまり覚えていない。しかし先生も生徒が授業を全て覚えているとは思っていないと言っていた。ただリボ払いというものがあったと記憶さえしていれば、今後いくらでも調べられるからそれだけ覚えておいて、と言っていたのを覚えている。普通科の高校ではなかなか学べないような生活の事を高校で学べたことはとてもいい経験になったし、とても印象深かい授業であった。

思い出に残っている授業

私が最も思い出に残っている授業は、小学校5年生の頃に1年間を通して行った、フェアトレードに関する授業である。当時の担任の先生がアフリカやアジアの貧しい国々に渡航経験が多く、現地で先生が実際に撮った写真などを見せながら子どもたちの教育や健康問題について学んだ。特に、カカオ豆の生産国であるガーナが抱える児童労働問題について深く学び、市販の安価なチョコレートとフェアトレードのチョコレートの違いを知った。授業の一環で近くの商店街や地域のイベントでフェアトレード製品を販売し、会計までを自分たちで行った。

心に残った授業

私がこの課題を聞いた時にはじめに思い浮かんだ一番心に残っている授業は、小学生の頃にあった国際理解の授業だ。この授業は各学年にあったが先生も毎年変わり、さまざまな国の先生がさまざまな国の文化や言葉などを教えてくれた。その中でも特に印象深かったのは、オランダの先生が遊んでくれた輪ゴムの遊び方だ。最初に輪ゴムを親指と人差し指に引っ掛けてIのようにし、そのあとは捻ってAや星などの模様のようにする、というものだ。子供心にはこれがとても面白く、自分でできるようになるために友人や先生と何度も練習した。その甲斐あってか、あの授業から10年以上経った今でも忘れることなく、むしろその頃よりもずっと早いペースで今でも輪ゴム遊びができる。先生の顔はもう忘れてしまったが、あの授業のおかげで私は海外の文化などに興味が出たのだと思った。

次に思い浮かんだのは、中学と高校の世界史と倫理の授業だった。前述した通り、私は小学校の頃の授業のおかげで海外の文化に興味を持っていたため、それらに関係のある世界史や倫理は好きな科目の中の一つに入っていた。世界史と倫理は科目としては別のものであるが、世界史でその時に生きていた人々の行動を、倫理でその時に生きていた人々の心理をそれぞれ学ぶことができ、双方を学ぶことによってより深いところまで理解することができるようでとても楽しかった。特に中世の西洋はキリスト教のもとで人々が生活しており、私が通っていたのはミッションスクールだったのもあり、より詳しいことを知ることができたと思う。日本という宗教という意識があまりない国で生まれ育ったため、自分の知らない価値観で生きて歴史を紡いでいった人がいたという事実が、それを知ることができる授業の時間がとても楽しく、興味深かった。

印象に残っている授業

私が印象に残っている授業は5つある。

1つ目は、小学校3年生の総合の時間に行った、近くの農家さんと協力して大根を育てる授業だ。私の小学校では1~6年生にかけて総合の時間に、学校の近くに畑を持つ農家さんと協力して作物を育てる授業があった。特に印象深い授業は大根作りだ。種まきから収穫まで様々な作業に関わり、更に大根について自分で調べたり、美味しい食べ方を考え、資料にまとめて発表した。地域の人と関わりながら、実際に土をいじりながら大根を育てることは、とても楽しかった。また、自分で育てた大根について調べることはとても興味深く、小学校の中で最も力を入れた調べ学習であった。自分以外の人の発表では、自分とは別の視点で大根について掘り下げており、面白かった。

2つ目は、中学校2年生の家庭科で行った魚の調理実習だ。中学校では様々な調理実習を行ったが中でも、初めて魚を捌いた、魚の調理実習が印象に残っている。1人1匹魚が配られ、頭をとり、内蔵を取るところから作業をした。初めて触る内蔵の感触や、初めて魚の体をしっかりと観察した様子が強く印象に残っている。内蔵を見るのは初めてで、初めは少し戸惑ったが、魚の体の仕組みが分かり面白かった。また、自分は魚料理を食べることが苦手だったが、自分で捌いて調理した魚料理は、今まで以上に美味しく感じた。この経験は、私が海に興味を持つきっかけになったと思う。

3つ目は、中学校3年生の音楽の授業だ。中学校では毎年合唱コンクールがあり、クラスごとに曲を決めて音楽の授業で合唱の練習をした。私のクラスは金賞をとるために力を入れて練習をした。クラスみんなで、強弱の付け方など、自分たちの歌をより良くするために話し合いながら練習した。このようにクラスみんなで協力して何かを成し遂げようとしたことは後にも先にもなかったと思う。最終的に金賞を取ることが出来て嬉しかったが、それ以上にクラスみんなで必死に練習し、自分たちの合唱がより良くなっていく過程が楽しくて、印象に残っている。

4つ目は、高校3年生の生物で、豚の目玉の解剖の授業だ。小学生のころの魚の調理とは違って、目玉の仕組みを学んだ上での解剖でとても面白かった。学習した時の印象と、解剖して実際に見た時の印象が全く異なった。実際に触ってみたそれぞれの器官の付き方や、色や形が印象深かった。また、初めて本物の水晶体を見て、透き通っていて、形も綺麗で感動した。この授業は、生物の体について関心を持つきっかけになった。

5つ目は、高校1~3年を通して行った探究学習だ。自分の興味のあることについて、自分で調べ方を考え探究していく授業だ。元々調べ学習が好きだった私は積極的に授業に参加した。自分の探究のテーマについてより深く知るために、企業に電話をして日程を決めるという初めての経験をした。緊張したが、社会人と関わる上でのマナーを学ぶことが出来た。自分で計画をたて、結果を出してまとめることはとても難しかったが、先生や友達と相談しながら探究学習を進めることが出来た。初めての経験が多く大変だったが、探究することの楽しさや達成感を感じることが出来た。

思い出に残る授業

小学校6年生（総合）

小学校6年生の総合の授業で、クラスでオリジナルソングを作った。当時の担任がギターの上手い先生だったので作曲してもらい、私たちは作詞をした。メロディにあう言葉を当てはめたり、硬くなり過ぎない表現を考えたりと、言葉について考える機会になった。